フジタガンカニュース

Vol.61 2015.10.19

「飛蚊症(ひぶんしょう)」は「ひもんしょう」とは読みません❸

※飛蚊症治療薬の謎を解き明かせ！

漢方系の治療薬で「飛蚊症の治療に効果あり」とされる薬剤がある事は事実なのですが、私の知る限り…こうした薬剤は「目のピントを調節する機能を減弱させる事」で治療を…つまり…「目の見え方全体をぼやかす事で、飛蚊症の症状を緩和させる」という作用のお薬です。一見「何の事だかわからない」かもしれませんが…一般的に眼科では、飛蚊症を訴える患者さんに対して「散瞳眼底検査」といって、目薬で瞳孔を広げて「わざと目をぼやかして見えにくくしながら」目の中の水晶体・網膜・硝子体や視神経の状態を観察する検査を行います。すると、患者さんによっては「さっきの目薬をつけてから飛蚊症が治ったわよ」と仰る患者さんもあって…つまり、視界が「みえにくく」なる事で「ついでに」飛蚊症も見えなくなっているだけなのですが、患者さんにとっては「眼科で目薬をつけたら治ったわ！」と感じる場合があるようなのです。しかし、一定の時間が経過して目薬の効果が切れればもとに戻る筈ですし…根本の治療とはなっていません。つまり、「飛蚊症をなおせる」というウタイ文句にはこうしたカラクリがある(場合がほとんどな)訳で、事実、一部の飛蚊症治療薬には目のピント調節機能を減弱させる効果がある事が知られています。また、正常範囲内の「飛蚊症」は、発症からしばらく時間が経過すると「見えなくなったり」、「気にならなくなったり」することが多いようです。人間の持つ順応力による変化と考えてよいと思いますが、たとえ効果の無い薬を服用していたとしても、一定の期間が経過すれば「治る」という事がほとんど(笑)な訳です。この事実をどう捉えるか？は読者の皆様の良識に委ねられるところではありますが…それでも、最終的には「たまに(飛蚊症は)見えることがあるけれど、生活上は支障がない」という状態に落ちつく事が多いと思いますけどねー(^_-)-☆。@@@